

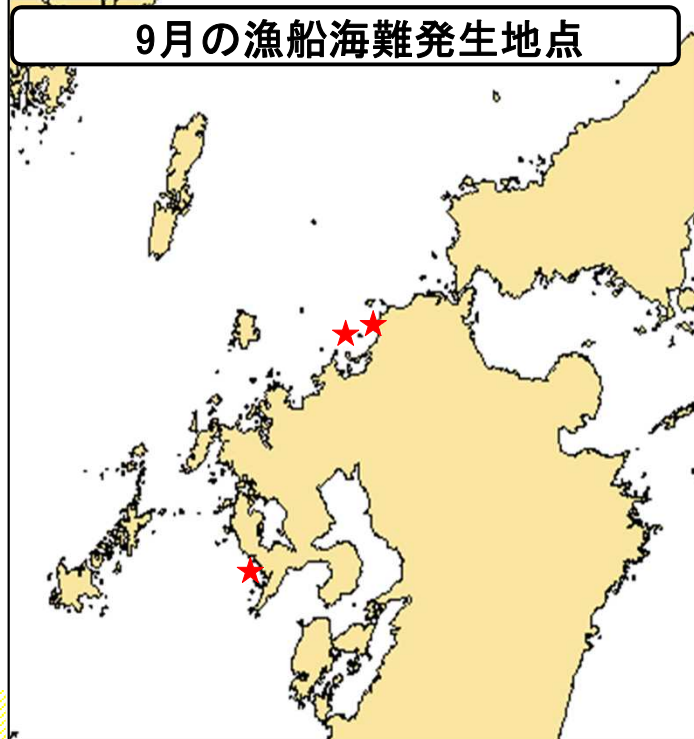
令和3年9月発生
七管内漁船海難 計3隻

令和3年9月累計 72隻 (前年 75隻)

漁船海難発生隻数は前年に比べ **3隻減少**

漁船海難隻数 (速報値)			県別内訳	
			9月	令和3年累計
衝突 ★ 3	合計 3隻 (昨年 12隻) 死亡、行方不明者: 1件	山口県	0	8 (10)
		福岡県	2	13 (14)
		佐賀県	0	3 (3)
		長崎県	1	37 (34)
		大分県	0	11 (14)
合計		3隻	72隻 (75隻) ()は昨年同月	

県別内訳表は、各県に所在する海上保安部署の担当海域にて発生した海難の合計数を示しています。数値は速報値です。



累計死亡・行方不明者数: 15名 (令和3年9月末日現在)

衝突事故連発 発生！！

9月に発生した衝突事故3件のうち2件が漂流中のプレジャーボートへの衝突！！

過去10年間(平成23年～令和2年間)の衝突海難のうち、航行中の漁船が見張り不十分で衝突した相手船を分析したところ右のグラフの通りです。漂流中等の動いていない小型船舶に対しての衝突が約6割を占めています。

人間の目は、『動いているもの比べて動いていないものを見つけにくい』と言われていました。また、『人間は見たいものだけ見ている』と言われ、意識していないものにあっても見つけにくいと言われていました。

衝突後の船長から事情を聞くと、

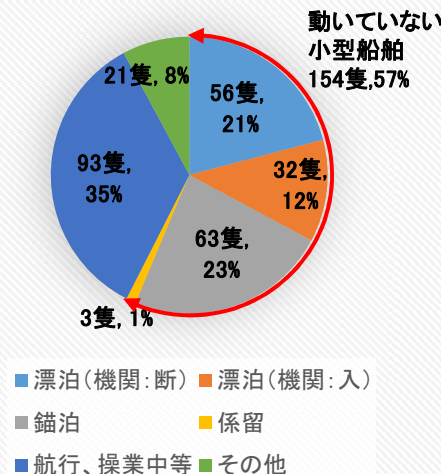
「この海域に船はいないと思っていた。」

「前を見ていたけど、気が付かなかった。」

と説明されています。

「船がいるかもしれない」という意識を持って見張ることが、安全運航に繋がります。また目視だけでなく、せっかく設置しているレーダー等の航海計器も活用しましょう。

衝突時の相手船の動態
【総隻数:268隻】



常に見張って安全運航！安全あつての漁師です。